



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2119号)

令和3年8月27日

兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

ハタハタ・アカガレイ・大型クラゲ等に関する情報について (令和3年度底びき漁期前調査結果)

令和3年8月5～6日に但馬沖水深180～350mで、同16・20日に大山沖・隠岐東方水深180～240mで、漁業調査船「たじま」によりトロール網試験操業を実施しました。(図1、表1)。結果の概要は以下の通りです。

1. ハタハタ

【調査結果】

- ・大山(青谷)沖水深210mで69kg/網、他180～240m水深帯で0.4～37kg/網の入網がありました。(表1、図2)
- ・隠岐東方～但馬沖の水深240m以浅での平均入網重量は15.9kg/網で、前年(36.35kg/網)および過去10年平均(52.5kg/網)を下回り、2005年以降で最も少ない結果となりました(図3)
- ・漁獲物サイズは過去2年と比較してやや大きく、2歳魚(16cm前後)が主体でした。年齢組成は2歳>3歳(18cm前後)>1歳(14cm前後)と見られ、1歳魚の少なさが目立ちました。(図4)

【秋漁の見通し】

- ・漁場は大山(青谷)沖を中心に形成されるでしょう。
- ・漁獲物は2歳(中型)主体に3歳(大型)、1歳(小型)混ざりとなるでしょう。
- ・9～10月の漁獲量は前年および過去10年平均を下回る200トン程度が期待されます。

2. アカガレイ

【調査結果】

- ・アカガレイは但馬沖水深240～350mと大山沖水深240mでややまとまった入網がありました。(表1、図6)
- ・但馬沖～大山沖の平均入網重量は23.2kg/網で、前年(7.6kg/網)を上回りましたが、過去10年平均(27.9kg/網)は下回りました。(図7)
- ・水深240～350mに体長25cm以上の大型メス、240mに体長15～25cmの中小型個体が分布しました。(図8)

【秋漁の見通し】

- ・漁場は但馬沖の水深300m以深を中心に形成されるでしょう。
- ・9-10月の漁獲量は前年(198トン)を上回る可能性があるでしょう。

3. 大型クラゲ等に関する情報

【調査結果】

- ・調査エリアのほぼ全域(93%)で大型クラゲの入網が認められました。(表1、図9) 入網重量は7～300kg/網、傘径25～100cmで、隠岐東方210、240mでは入網物の75%以上をクラゲが占めました。
- ・サルパ(クラゲ状の遊泳性のホヤの仲間)は見られませんでした。

【今後の見通し】大型クラゲは、過去の大量発生年ほどではないものの、特に隠岐島周辺で入網量が多くなっています。対馬周辺での出現も続いていることから、以下のHPより情報収集に努め、念のためクラゲ排出網の準備もご検討下さい。①JAFIC; <http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>、②水産研究・教育機構 水産資源研究所(旧日本海区水産研究所); http://jsnfrri.fra.affrc.go.jp/Kurage/kurage_top.html、③但馬水産技術センターだより(クラゲ情報; URLは下記)

4. その他の情報

- ・ズワイガニ(未成体・アカコ・クロコ等)が多く分布する海域があり、これらの混獲回避が大変重要です。操業を控えたり、混獲回避漁具や「吊り岩」等を有効活用し、ズワイガニを1匹でも多く残しましょう。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター(担当：大谷・田村)

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

email：nourinc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：http://www.hyogo-suigi.jp/tajima/index.htm

令和3年度底びき漁期前調査結果 資料

1)調査の目的

底びき解禁前のハタハタ、アカガレイ、大型クラゲ等の分布、体長組成等に関し、情報の収集と提供を行う。

2)調査日時

令和3年8月5～6日(但馬沖)

令和3年8月16・20日(大山沖～隠岐東方)

3)調査海域

但馬沖:水深 180～350m海域

大山沖～隠岐東方:水深 180～240m海域(図1参照)

※当所計画していた隠岐北方海域については、天候不順等により調査を割愛した。

4)使用船舶

兵庫県 漁業調査船「たじま」(199トン)

5)調査内容

①トロール試験操業

図1に示した計14点において、底びき試験操業を実施。

使用漁具:着底トロール網、袋網16節、袖先間隔27m、網口高さ2.9m、曳網方法:3knot、30分(約1.5マイル)曳き。

②海洋観測

定点におけるASTDによる海底までの水温、塩分観測と、網に取り付けたセンサーによる海底水温の計測を実施。

③魚探反応の収録

トロール曳網時の魚探反応を収録。

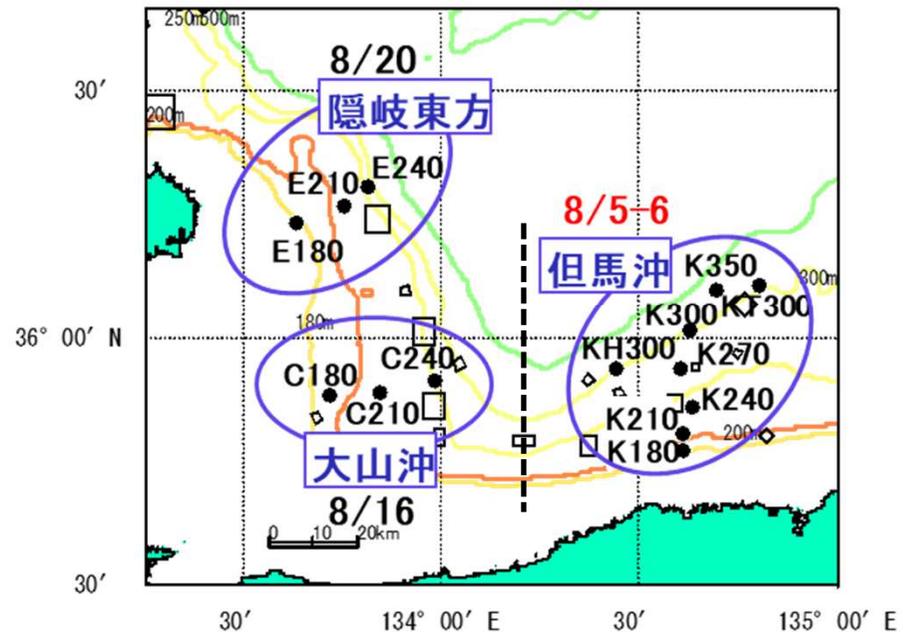


図1 調査海域図

表1 定点別魚種別入網状況(2021年)

月日	曳網開始時刻	エリア	操業点番号	平均曳網水深	海区番号	表面水温(°C)	海底平均水温(°C)	魚種別入網重量(kg)							
								ハタハタ	アカガレイ(マガレイ)	ソウハチ(イ)	ヒレグロ(ヤマ)	ハイ類	ヒ類	ノゲンゲ(トキ)	大型クラゲ
8/6	7:10	但馬沖	K350	340	8086	28.9	0.9	0.8	39.7	0.0	0.4	2.4	11.7	60.7	36.3
8/5	17:41		KH300	303	8191	29.0	1.8	0.3	9.7	0.0	0.0	0.0	8.6	92.3	7.2
8/6	5:26		KT300	308	8086	28.9	1.3	0.2	15.2	0.0	0.4	0.8	3.5	47.1	15.2
"	9:00		K300	300	8089	28.6	1.3	0.9	72.6	0.4	0.1	2.6	4.0	98.8	12.2
8/5	15:30		K270	270	8097	29.4	1.9	2.3	69.9	0.0	1.9	1.1	2.1	47.1	19.0
"	13:35		K240	235	"	29.3	2.4	36.8	74.2	5.3	7.0	41.2	1.5	32.6	11.8
"	11:56		K210	210	8098	29.2	3.3	0.4	5.6	0.4	0.1	9.3	0.1	0.0	8.1
"	10:21		K180	183	"	28.9	7.9	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
8/16	12:48	大山沖	C240	248	8291	25.8	1.8	32.6	48.8	2.7	2.0	14.7	0.3	3.8	103.0
"	14:59		C210	205	"	25.6	3.4	68.6	7.5	1.5	0.3	30.2	1.0	0.0	99.9
"	16:27		C180(190)	191	8294	25.6	4.3	10.6	1.1	7.1	3.3	0.0	1.1	0.0	70.0
8/20	9:56	隠岐東方	E240	243	8285	25.6	2.5	9.7	0.4	0.1	0.6	2.1	0.2	5.6	180.0
"	8:15		E210	210	"	25.6	4.0	15.8	0.1	6.1	2.1	7.1	0.2	0.0	300.0
"	6:25		E180	185	8288	25.2	5.7	12.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	70.0

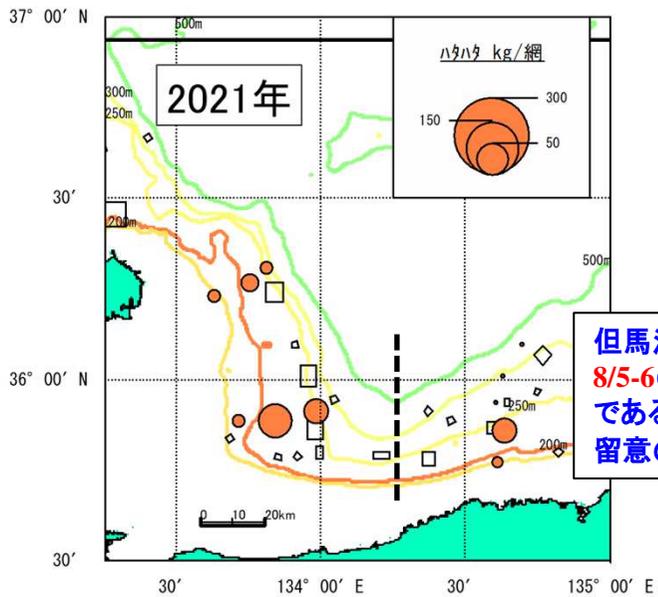


図2 ハタハタ入網重量の分布(kg/網)

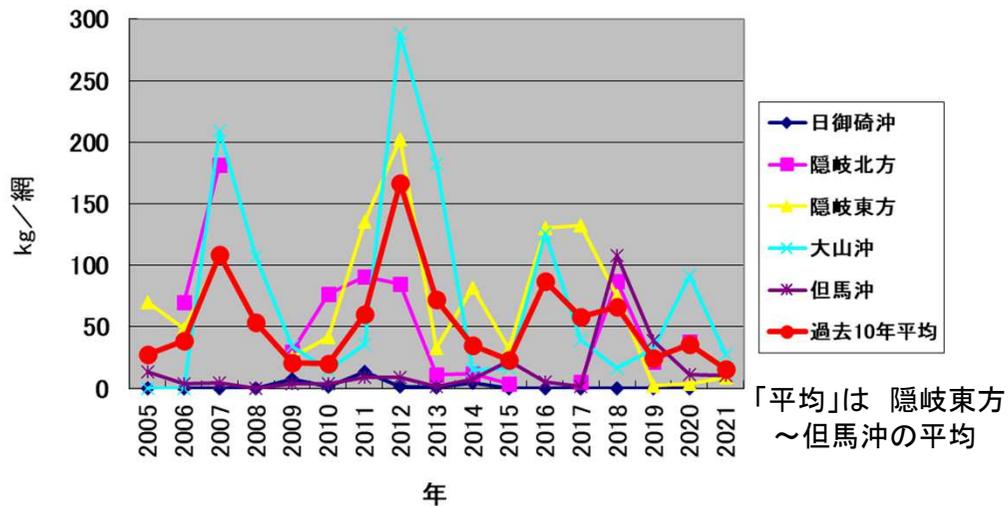


図3 エリア別 1 曳網当たりハタハタ入網重量
(180-240m定点、袖先間隔で補正)

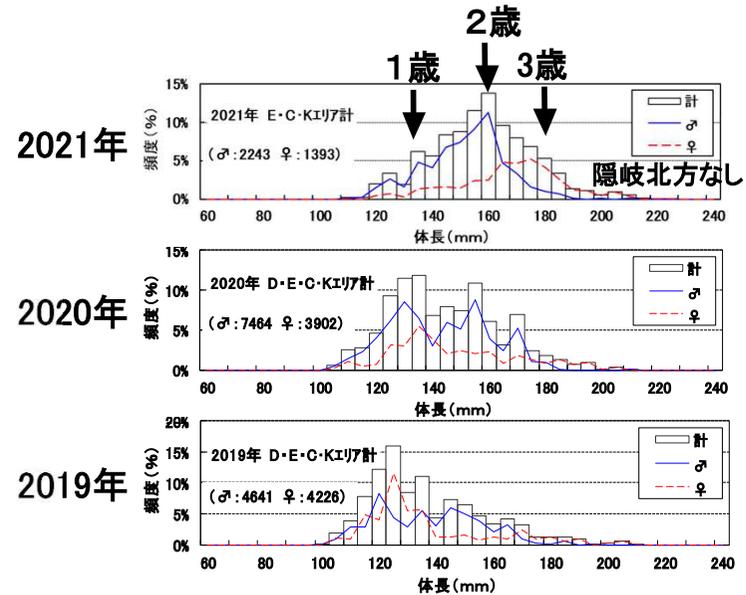


図4 近年のハタハタ体長組成
(隠岐北方～但馬沖)

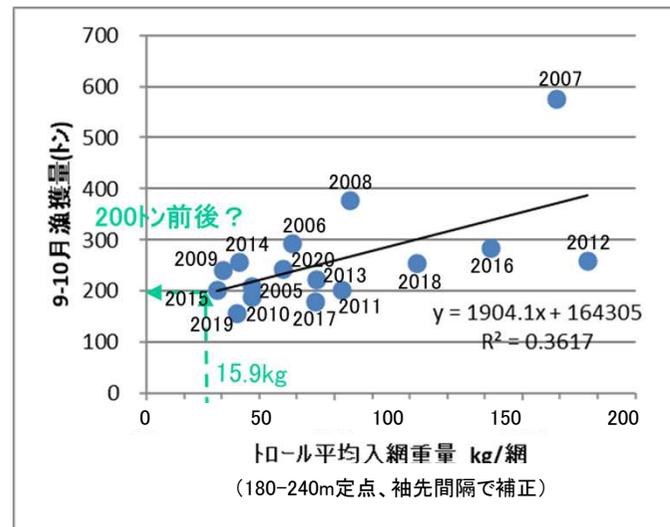


図5 調査1 曳網あたり入網重量と
9～10月のハタハタ漁獲量の関係
「平均入網重量」はデータのある全エリア平均

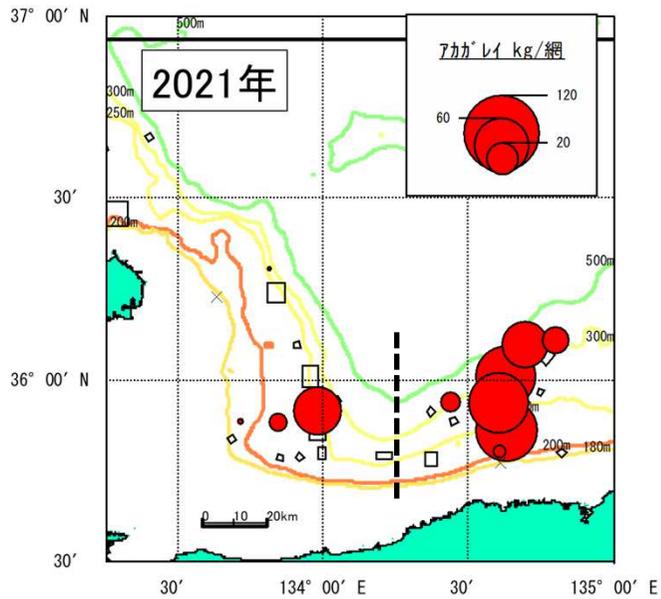


図6 アカガレイ入網重量の分布(kg/網)

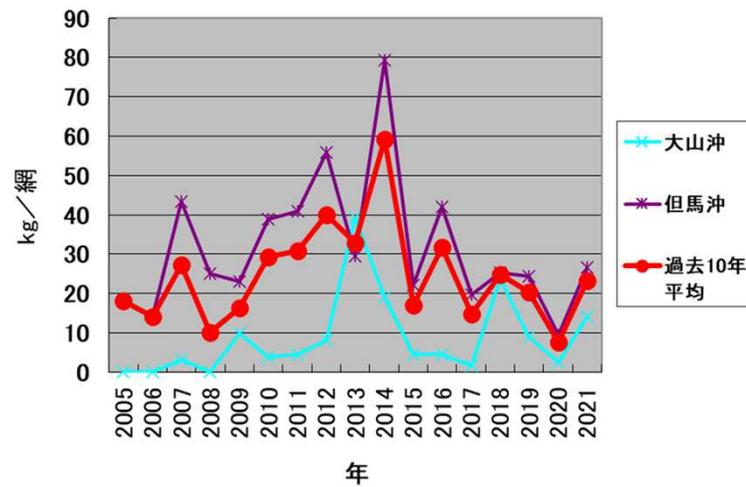


図7 エリア別 1 曳網当たりアカガレイ入網重量

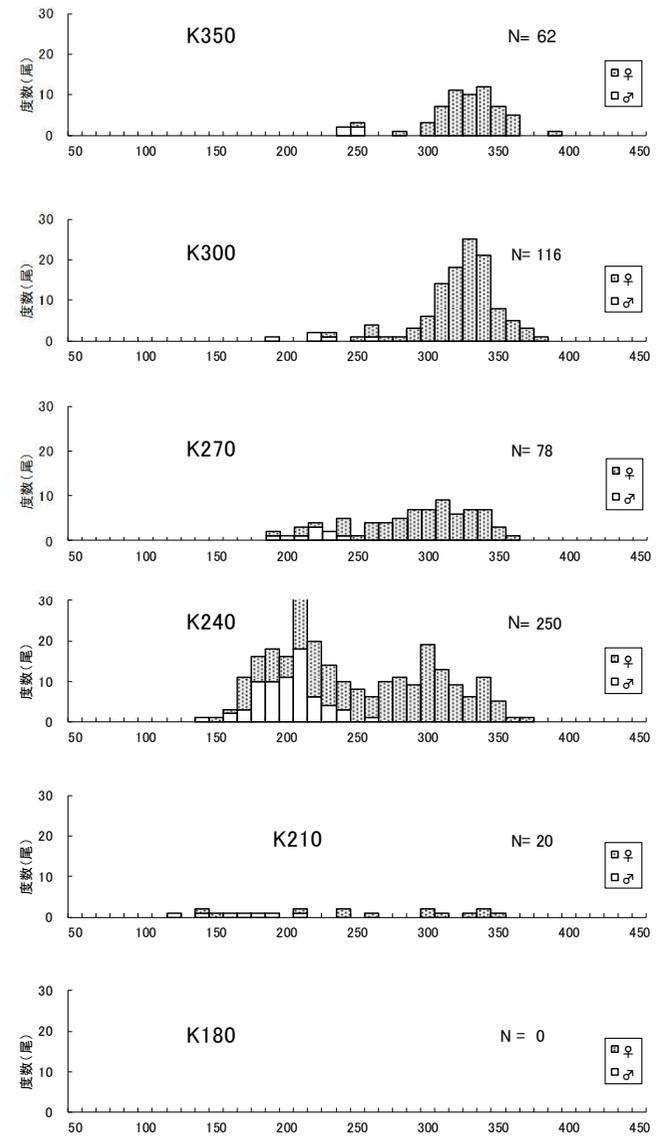


図8 定点別アカガレイ体長組成(香住沖)

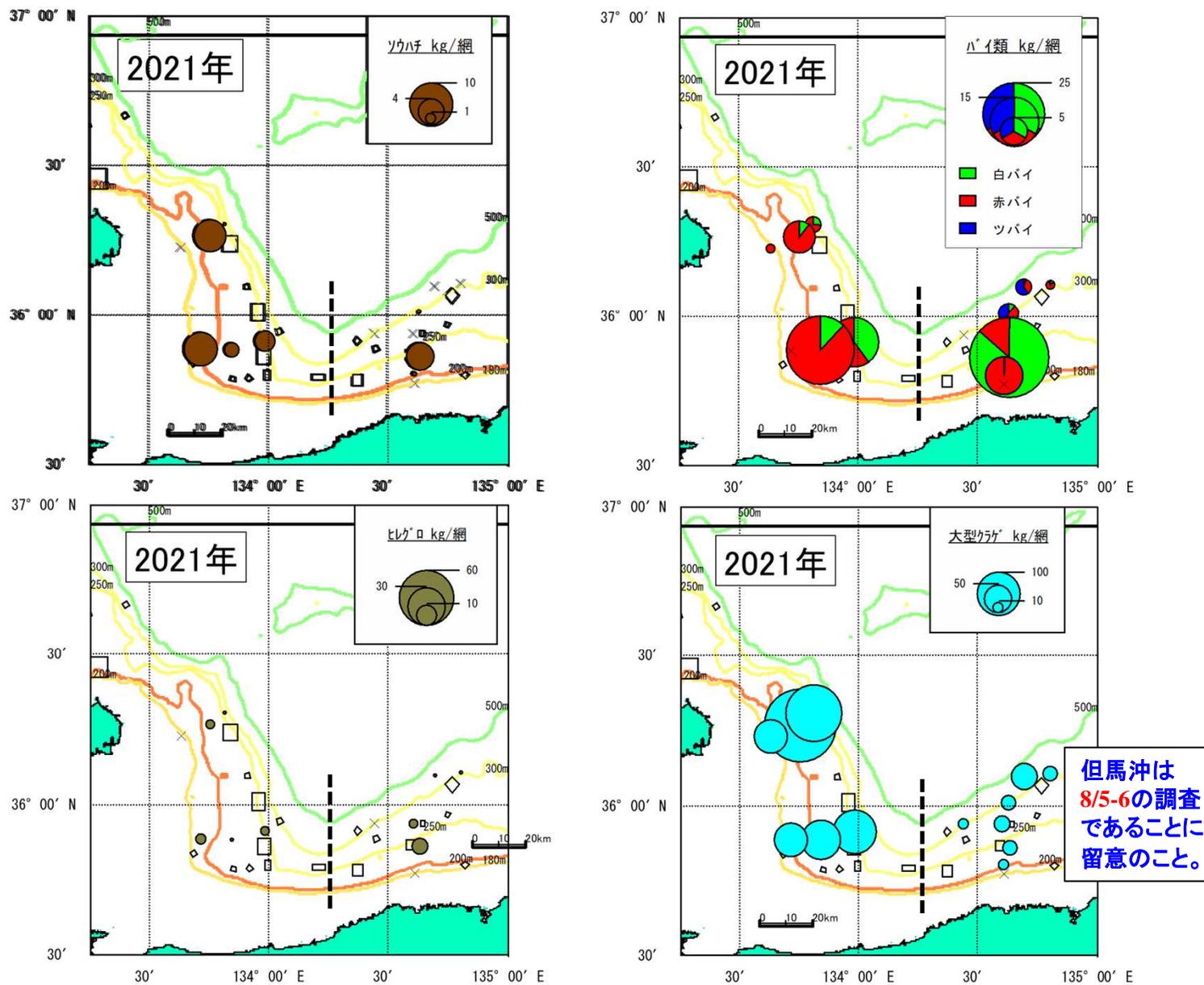


図9 その他主要魚種等の入網重量の分布(kg/網)